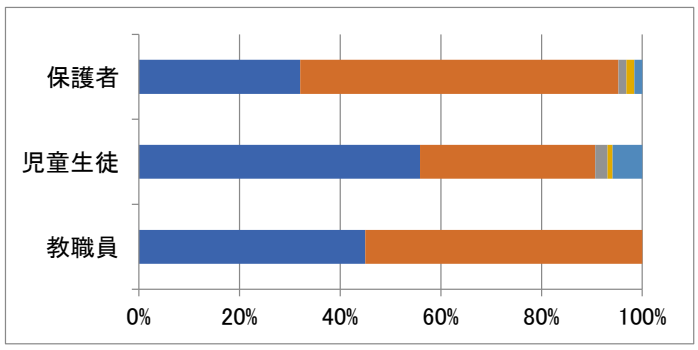
令和６年度　学　校　評　価

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　わからない

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

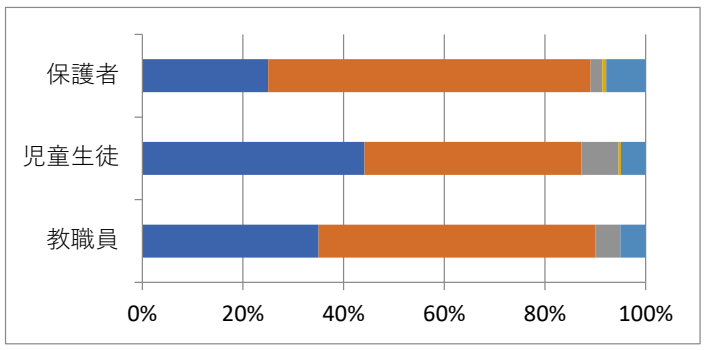
１豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。（感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など）



２自ら学びに向かう力を育む教育の推進

学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。



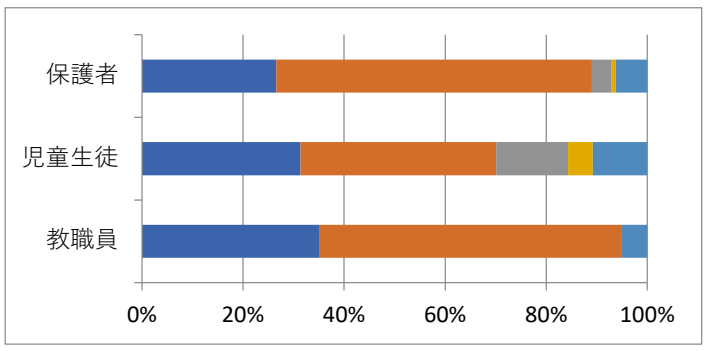
考察

「１ 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」については、肯定的な意見が多かった。ただし、「そう思う」と回答した保護者の割合は３割強であり、より豊かな心と健やかな体を育む教育の推進が求められる。「２ 自ら学びに向かう力を育む教育の推進」では、どの回答も９割程度の割合であった。ただ、この項目においても、「そう思う」と回答した保護者の割合が２割強程度であるため、次年度さらに充実するための手立てが必要である。

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

３社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進

学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。（児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイストライ（中学校）など）



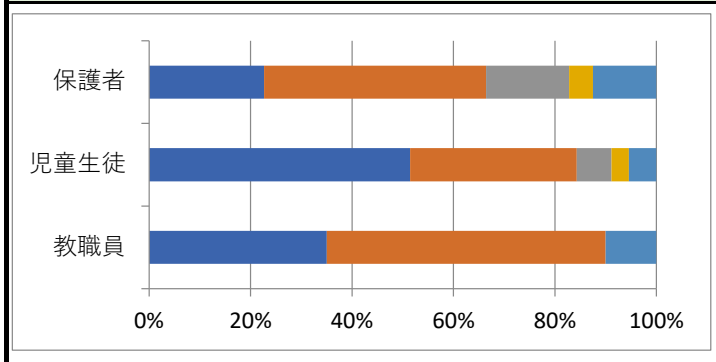
考察

肯定的な回答をした割合を見ると、教職員と保護者・児童の認識の違いがあることがわかる。教職員は９割強の割合を示し、保護者も９割弱の割合を示しているが、児童の肯定的な回答の割合は７割程度である。本年度、児童会活動の充実や学校のきまりの見直し等については取り組むことができたので、次年度には地域の良さを伝えたり、課題解決したりする取り組みの充実が求められる。

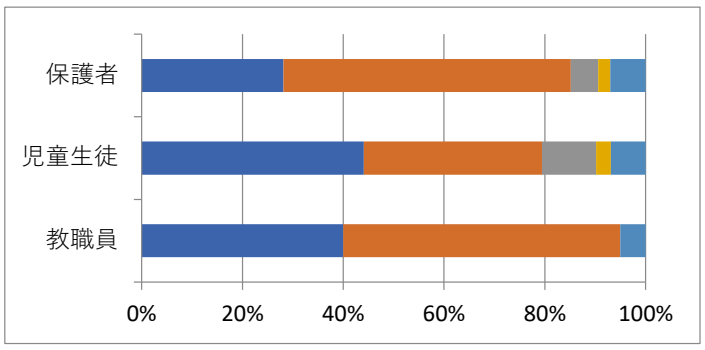
（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

４５個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。



学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。



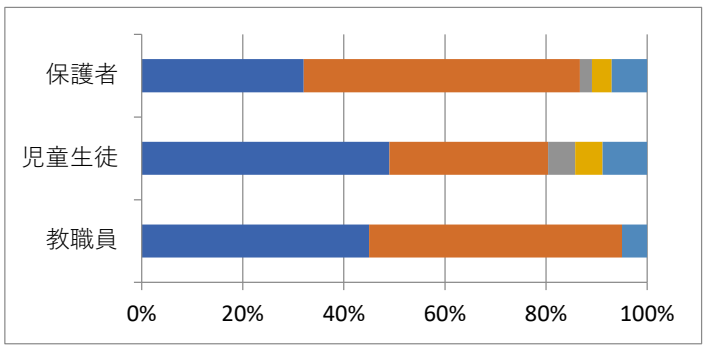
考察

「こどもが学ぶ授業づくり」の肯定的な回答の割合が教職員よりも保護者の方が低くなっている。学級通信等を活用して、学校で取り組んでいるこどもが学ぶ授業づくりについての周知が必要である。ただ児童の「そう思う」の割合は、5割を超えているため、児童の学んだことの実感を記述した振り返りの紹介していくことでも、改善が見込まれる。「対話」については、保護者の肯定的な回答の割合が増加している。

（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

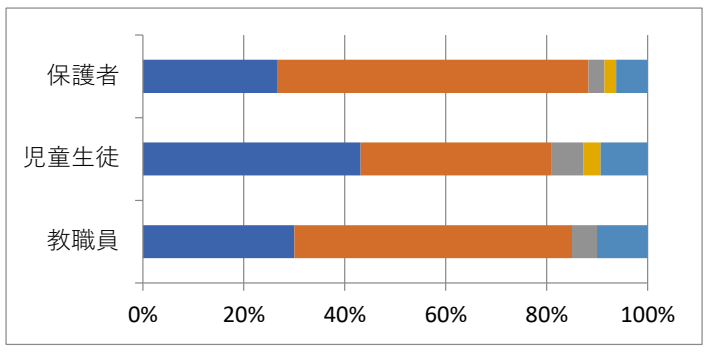
６特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。



７インクルーシブ教育の推進

学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。



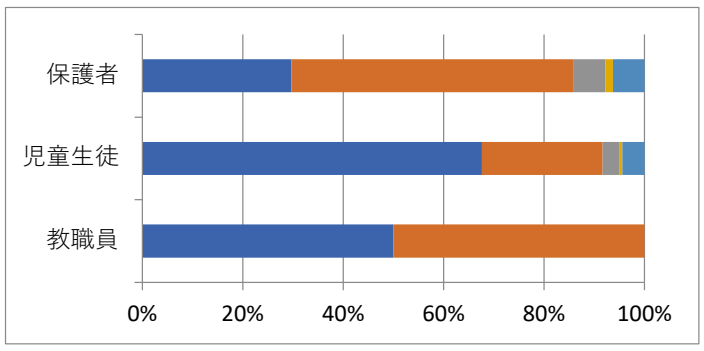
考察

学級の支持的風土に関する項目では、教職員の肯定的な割合が最も高く、次に保護者、児童となっている。それぞれの割合が９～８割であるため、残り１～２割の児童にも支持的風土が感じられるようになるための支援を充実させる必要がある。インクルーシブ教育の推進では、保護者の肯定的な割合が最も高い。ただし、この項目においても児童の否定的な割合は２割程あるため、支持的風土の充実とともに、全員が安心して学習できるようになるための改善の手立てが必要である。

（3）最適な教育環境の整備

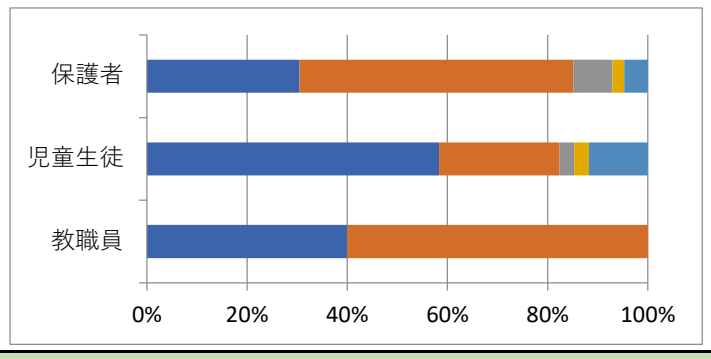
8 安全・安心な園づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。



9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

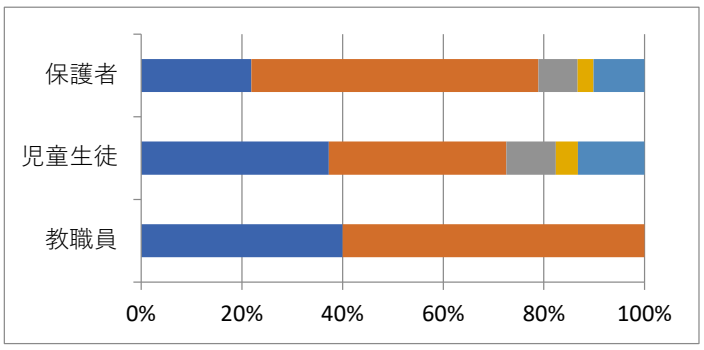


安全教育に対する保護者の肯定的な割合が教職員・児童の割合と比較して、低くなっている。防災面での改善としては、学校での避難訓練などの取り組みの詳細を学級通信等で通知したり、登下校中の危険個所の確認及び対応を検討してみるのもよい。地域や家庭との連携では、まだ改善できる余地が残っている。教職員よりも保護者の割合が低いため、地域の方々との交流はもとより、保護者の協力をより推進していってもよいのかもしれない。

（4）こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

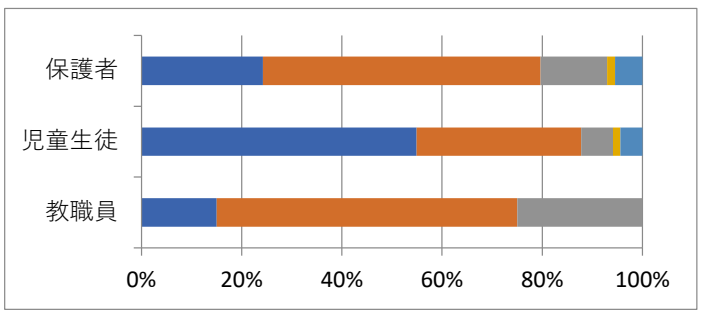


保護者の「そう思う」の割合が２割にとどまっている点に、次年度に向けた改善が必要であると考える。通常の日課の中に、こどもと教職員がゆとりある中で相談できるような時間を設けていくなどの時間創出の取組が求められると考える。そのために、教職員が職員会議や校内研修の時間を使って、こどもが保護者が相談しやすい学校づくりについての意見交換を行うとともに、地域の方々と意見交換する場の設定も必要であると考える。

独自項目

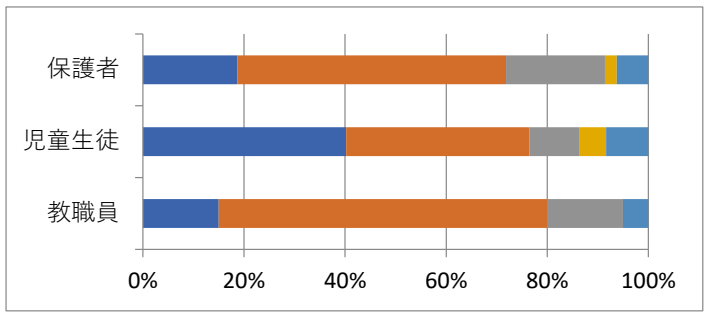
独自項目1

子どもは、学校生活や日常生活の中で、自分で決めて挑戦したり、進んであいさつをしたりしていると思いますか。



独自項目2

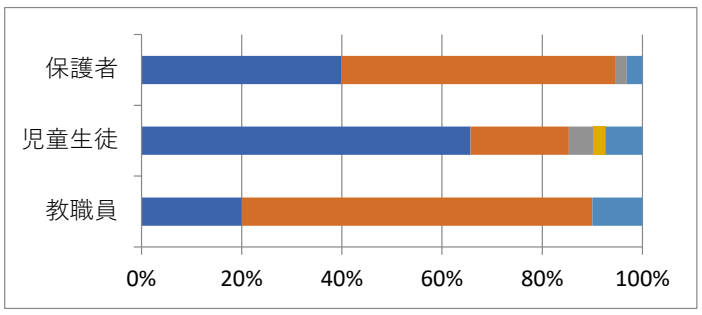
子どもは、学校生活や日常生活の中で、自分の考えをもち、それをはっきりつたえることができていますか。



「自分で決める」ことに関するアンケート結果では、児童の肯定的な割合が最も高くなっていた。反対に、教職員の割合が低くなっている。児童が自分で決めたり、挑戦したりした場を取り上げて、褒めるなどの価値づけを行っていく必要がある。「自分の考えや気持ちを伝える」ことに関しては、保護者の２割程度が「そう思わない」を選んでいる。自分の考えや気持ちを伝えることの充実が求められる。

独自項目3

子どもは、自分も友たちも大切にできていると思いますか。



保護者の９割以上が自他を大切にすることができていると回答しており、「そう思わない」の割合も低い。ただし、児童の２割弱が肯定的ではない回答をしていることに注意する必要がある。この２割の児童が自他を大切にできるように、意図的計画的な学級活動の指導や集団作りの指導の充実が必要であると考える。

来年度の具体的な取組について

〇定期的な実態把握として、毎月「きずなアンケート」に取り組んでいる。このアンケートの結果を基に、きめ細やかな対応と全体への集団指導を組み合わせていくことで、豊かな心の育成や指示的風土の育成、自他を大切にする態度の育成に取り組んでいく。
〇自ら学びに向かう力の育成では、校内研修の充実を基本に取り組む。校内研修の視点の一つに「主体的な学び」につながる授業づくりの工夫を設定しているため、研究授業の授業研究会の中で「主体的な学び」について話し合う場を設け、そこで明らかになった内容を日々の授業実践に生かしていく。また、実際の授業の中で取り組んだ工夫を学級通信などで家庭と共有し、学校と家庭がともに「主体的な学び」の推進に取り組むことができるようにしていく。
〇教員が児童の困り感に寄り添ったり、保護者からの相談に校内で対応できる体制を整えることにより、多様なニーズに対応した支援の充実をに取り組んでいく。また、必要に応じて児童や保護者との面談の場を設けたり、外部の専門機関との連携（SC、SSW）を進めていく。
〇地域の良さを伝えたり、課題解決したりする取り組みとして、プロジェクト型の単元構成（PBL）について検討していく。主に総合的な学習の時間での取り組みになると考えられるが、健軍東小校区の課題を改善するためのプロジェクトを企画し、そのプロジェクトを成し遂げるために必要な地域人材の活用を推進していく。
〇安全教育については、毎月１回の安全点検を行っていたが、委員会活動を活用し、児童の視点からも安全点検が行えるようにしていく。
〇「自分で決める」ことを推進するためには、児童が自己決定できる機会の充実が求められる。生徒指導や委員会活動はもとより、低学年の学級活動や常時活動である係活動の中にも自己決定する場を充実させていく。
〇今年度も児童会活動として「あいさつ運動」の取組を充実させていったが、その取り組みを充実強化することにより、地域全体の交流しようとする意識の向上に取り組んでいく。

小中学校関係者評価

〇学校教育目標に「自分で決める」という文言が明示されていることがよい。１０年前に勤務していた職場で「サスティナブル」という言葉を顧客に説明する機会があったが、「サスティナブル」が顧客との共通語になっておらず、苦労した経験があった。学校においても教師と子ども、保護者との共通語にするためには、やはり目に見える形で提示されていなければならないと考える。一昨年度から学校教育目標に明示されているため、学校と家庭でしっかりと共通語になりえている。この共通語を地域に広げていくことで、さらなる充実が期待できると考える。
〇挨拶についての項目を考える時、保護者がきちんと挨拶できているのかという根本的な問題について省みる必要がある。朝の挨拶運動にて、子どもと一緒に登校してきた保護者に挨拶をしても、挨拶が返されないことが多々あった。子どもたちの挨拶の力を上げるためには、子どもだけでなく保護者への啓発も必要なのではないか。
〇今年度の成果及び課題の改善点を大切にし、次年度も継続していってほしい。